



「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

日本マクドナルド株式会社

日本マクドナルド株式会社は、日本で45年以上事業活動を行っており、現在全国約2900店舗において14万人以上のクルーが働き、毎年約14億人以上のお客様にご来店いただいております。日本のみならず、世界最大級の外食企業として、マクドナルドは世界中の社会的課題や環境問題に取り組み、マクドナルドを支えてくださっている地域の皆様にお返しする責任があると考えています。私たちのグローバルな規模を活用することで、より持続可能な社会の実現に向けた変化をもたらすことを目指しています。

現在、プラスチックごみの処理に関して非常に高い関心が集まっており、3R（Reduce：削減、Reuse：再利用、Recycle：再生）の重要性が再認識されています。多くのファミリーのお客様にご利用いただいているマクドナルドでは、持続可能な社会の実現に貢献するため、以下の活動に取り組んでいます。

（Reduce）

・「ほんのハッピーセット」:

2018年7月より、通常はプラスチックおもちゃが付いてくるハッピーセットに、紙製の絵本と図鑑も選択肢に加わった新プログラム。

・「プラスチックカップから紙カップに変更」:

2016年より、アイスコーヒーのカップをプラスチックから紙に変更し、2018年からはFSC認証紙を使用。



・「プラスチックバッグの削減」:

持ち帰り用袋は紙袋を推奨し、プラスチックバッグは必要に応じてご提供。
また、2018年より、1ドリンクのみを入れるプラスチックバッグを導入。



・「お客様のリクエストに応じた商品のご提供」

飲み物に添える砂糖やミルクなどのコンディメントが必要かどうかお客様にお伺いした上で必要な量だけご提供。

(Recycle)

・「ハッピーりぼーン」:

2018年2月から5月の間、遊ばなくなったハッピーセットのプラスチックおもちゃを全国の店頭で回収し、集めたおもちゃでできたりサイクル樹脂を10%含む店舗用リサイクルトレイを製造したプロジェクト。2019年も継続して実施していく予定。



マクドナルドは、「地球のことを考えて行動する」という理念に基づき、持続可能な社会の達成に寄与する様々な取り組みをお客様、従業員、パートナーの皆様とともに実行しております。今後とも上記以外の活動も積極的に行い、地球環境に貢献してまいります。

連絡先

担当部署：コミュニケーション&CR本部 広報部

電話番号：03-6911-5710



2018 年11月20日

「プラスチック資源循環アクション宣言」 ～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～



日本肥料アンモニア協会
全国複合肥料工業会

海洋漂着プラスチックを巡る肥料業界の対応について

私ども団体の取り扱い品目、特に化学肥料については申し上げるまでもなく、農業生産に欠くことの出来ない基礎的な資材であり、我が国の農業及び国民生活に対して多大な貢献を果たしてきた。

その中でも速効性肥料を、プラスチック類を用いて物理的に加工した被覆肥料は、機能性肥料として主力商品であり、その特長は、農家の要望に合わせて肥効特性が適切にコントロールされていることにある。1970年代の上市以降、現在まで様々なタイプが品揃えされており、被覆肥料及び被覆肥料を配合した複合肥料は日本の農業に欠かせない肥料として、多くの肥料メーカーが生産出荷している。

被覆肥料の特長として、溶出コントロール性、高成分、吸湿性が極めて低いことなど肥効特性も含めて、他の機能性肥料では機能面、コスト面で代替できない状況となっている。現在では、本機能が評価され、被覆肥料が使用されている水田の面積は約6割を占め、我が国の農業にとって重要、かつ不可欠な品目と位置付けられ、今後益々需要が増えると予測している。

従来の速効性肥料では、作物へ基肥・追肥と数回に分けて施肥していたが、数回の施肥作業は農家へ負担を強いていた。被覆肥料は、肥料の利用効率が速効性肥料に比べて格段に高く、この誕生により全量基肥施肥あるいは施肥回数の削減を可能とした。施肥の省力化は、農家の方から高い評価を得てきた。大規模農家においては、経営の効率化に、その他高齢農家においても夏場の施肥の省力化により体力、健康面でも支持されてきた。農水省においても、施肥量を減らすことが出来るので肥料資源が有効活用されること、圃場系外への肥料成分の流出が抑制され水系富栄養化が抑制されること及び温暖化原因のN₂Oガス発生が抑制されることなど、環境に配慮した農業が可能と位置付けられて来た。

弊会は肥料の殻の問題として、プラスチック含有被覆材を環境中に排出することを抑制するため、肥料袋に注意書きの記載やチラシの配布などにより改善を進めてきた。加えて各メーカーも、分解性のある素材への転換を図ってきた。然しながら、海洋漂着プラスチック問題は国際的に大きな問題となっており、業界全体で一層の対策を講じる必要があると考える。

◎対応策

肥料業界として、以下の基本的な取組み方針を表明する

- ① 従来から被覆肥料殻の農耕地からの流亡防止のため、包材などへの記載などにより農家へ注意喚起を行ってきたが、流通・農家との協力を深め、継続して一層の強化徹底を図る。
- ② 被覆肥料殻の環境中での分解性について、更なる向上を目指し、併せて被覆樹脂使用量の削減に向けた技術開発を継続して進める。
- ③ 他の機能性肥料の活用場面の拡大などを推進する。

以上

連絡先：日本肥料アンモニア協会

電話番号：(03)-5297-2210

2018年11月16日

「プラスチック資源循環アクション宣言」
～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

(一社) 日本植物油協会

～プラスチック資源の循環への積極的な貢献～

プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、そのリスクを低減し、資源として適切に循環されていくよう、製品使用後廃棄する際の環境負荷低減を図るために、今後とも容器包装のプラスチック使用量の削減をはじめ、プラスチックのリサイクルの推進に向けた各種対策に積極的に取り組んでまいります。

「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

日清オイリオグループ株式会社

日清オイリオグループは、かけがえのない地球を次の世代に引き継ぐために、「植物のチカラ®」を最大限に引き出し、環境にやさしい企業活動に取り組めます。

日清オイリオグループは、プラスチックが、海洋ごみ問題をはじめ環境中に放出されて大きな影響を与えていることを踏まえ、今後未来に向けて、ごみとして環境中に放出されるリスクを低減し、資源として適切に循環されていくよう、

- ・生産工程でのゼロエミッションの継続
 - ・環境負荷の少ない容器・包装の開発
- に引き続き取り組んでまいります。

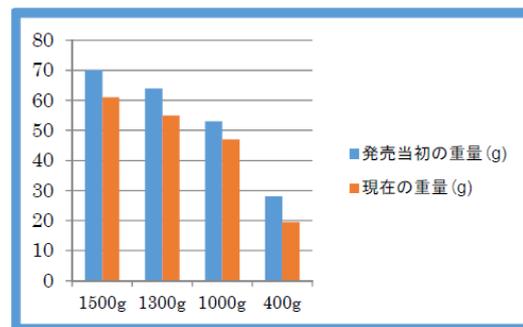
〔取り組み実績〕

- ・製品使用後廃棄する際の環境負荷低減のために、容器包装のプラスチック使用量の削減に取り組んでいます

＜実績例＞

1500g 丸形ボトル	: 13%削減
1300g 丸形ボトル	: 14%削減
1000g ボトル	: 11%削減
400gPET ボトル	: 30%削減

※発売当初からの削減割合



- ・廃プラスチックを含め、生産工程での廃棄物再資源化率 99%以上を継続しています

コーポレートレポート URL

<http://www.nisshin-oillio.com/company/csr/report.html>

連絡先

担当部署：コーポレートコミュニケーション部 広報・IR 課

電話番号：03-3206-5109

「プラスチック資源循環アクション宣言」

～みんなの力でプラスチック資源の循環に取り組もう～

株式会社 J-オイルミルズ

J-オイルミルズは、容器包装に係る環境負荷を低減する取り組みとして、包材の改善や軽量化、また廃棄時の減容化や分別の容易化など、長年にわたり積極的に取り組んでまいりました。

これまでの取り組み例

2014 E14 U1 400gUDエコパウチ バイオマス仕様

原料のさとうきび由来原料PETに蒸着バリアを施しパウチに使用。

- 第39回本下賞
新規創出部門
- 日本パッケージングコンテスト
食品包装部門賞



2007 E07 U1 1000gエコパックス

食用油容器として初めて「エコマーク商品」として認定された紙パックを採用。外箱は再生紙で解体容易設計、内袋は小さくたんで捨てられます。「お助け円み」で持ちやすく、エンボス加工で滑りやすさを確保。さらに印刷は大豆インクを使用。

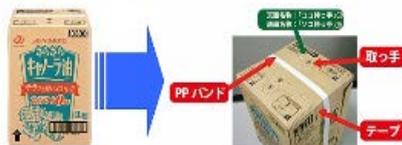
- 日本パッケージングコンテスト
ジャパンスター賞、
経済産業大臣賞
- 第31回本下賞
改善合理化部門
- ジャパンパッケージングコンペティション
リニューアル部門賞
- 食糧新聞社賞
優秀機械・資材賞



2011 E11 U1 8kg及び15kgUDバッグ・イン・ボックス(UDBIB)®

持ちやすさ(柔らかいPPバンド)、注ぎやすさ(ココ持ちっ手・ソコ持ちっ手の取っ手穴付き)、廃棄しやすさ(廃棄しやすいテープ)を採用。

- 日本パッケージングコンテスト
アクセシブルデザイン賞



当社 HP より抜粋 <https://ir.j-oil.com/csr/Environment/003.html>

今後も、新素材や新技術の導入(植物由来のバイオマスプラスチックなど)、プラスチック容器包材の改善(軽量化、薄肉化など)、商品を発売する際の環境影響を評価する仕組みの導入などに取り組んでまいります。